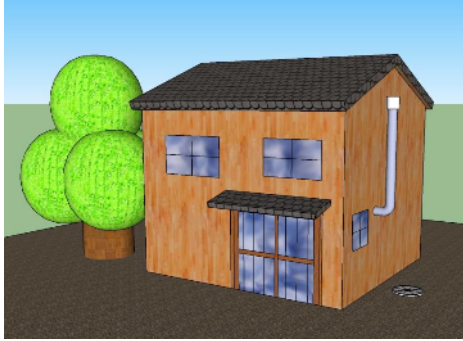


設置しましたか？

「住宅用火災警報器」

既存住宅



平成23年5月31日までに設置が必要です。

新築住宅



平成18年6月1日から設置義務となっています。

平成23年6月1日から全ての住宅に設置が必要

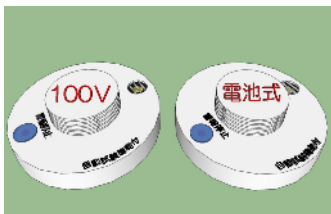
Q1 なぜ、住宅用火災警報器が必要なのですか

A 住宅火災による死者の状況は、次の3つがあげられます。

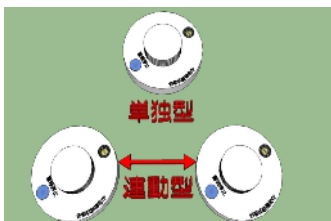
- ・ 約60%が逃げ遅れ
- ・ 死者の約60%が高齢者
- ・ 火災による死者は就寝時間帯に多い

被害を軽減させるためには、火災の発生をいち早く知る、知らせることができる、**住宅用火災警報器**が必要です。

一般的に火災の初期段階では、煙が発生します。煙を感知すれば火災を早く知らせます。(もちろん熱も感知します。)火災を早く知ることができれば、早く避難でき、初期消火できます。



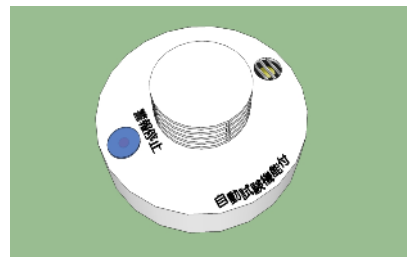
電源別



単独型と連動型

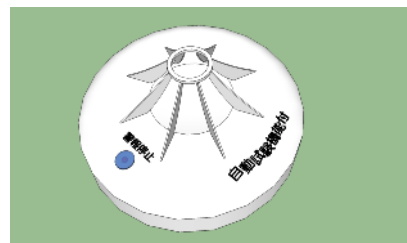
既存住宅への取り付けは簡単です

電源は、「電池」によるものと「交流電源」によるものがあります。火災を感知した警報器だけが警報を発する「単独型」と、すべての警報器が警報を発する「連動型」があります。



煙式

50cm くらい離れたところから流れてくる煙の量で、警報を発生します。



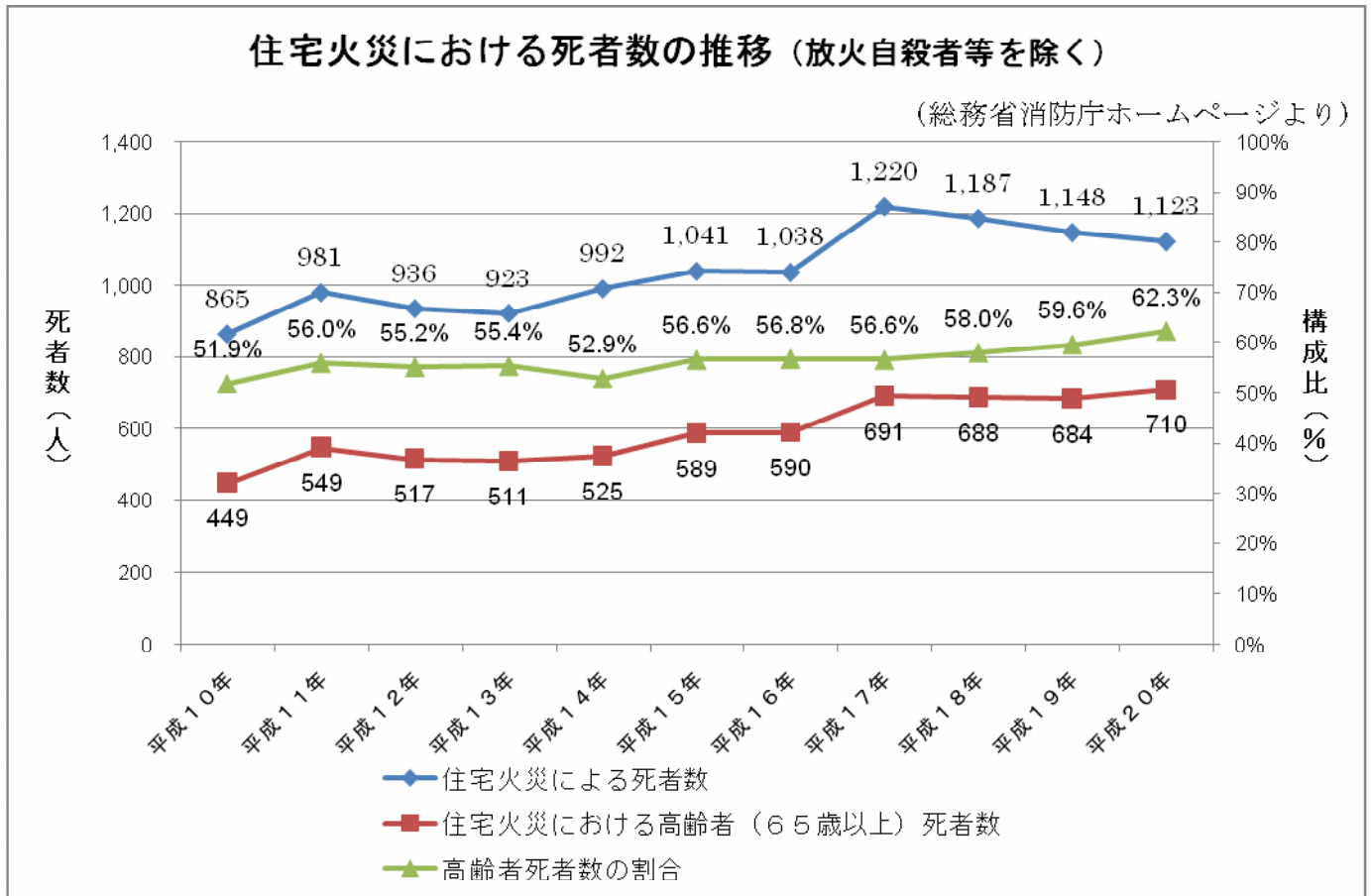
熱式(定温式)

警報器の周辺が、およそ65前後になると警報を発生します。

Q2 住宅用火災警報器の種類は...

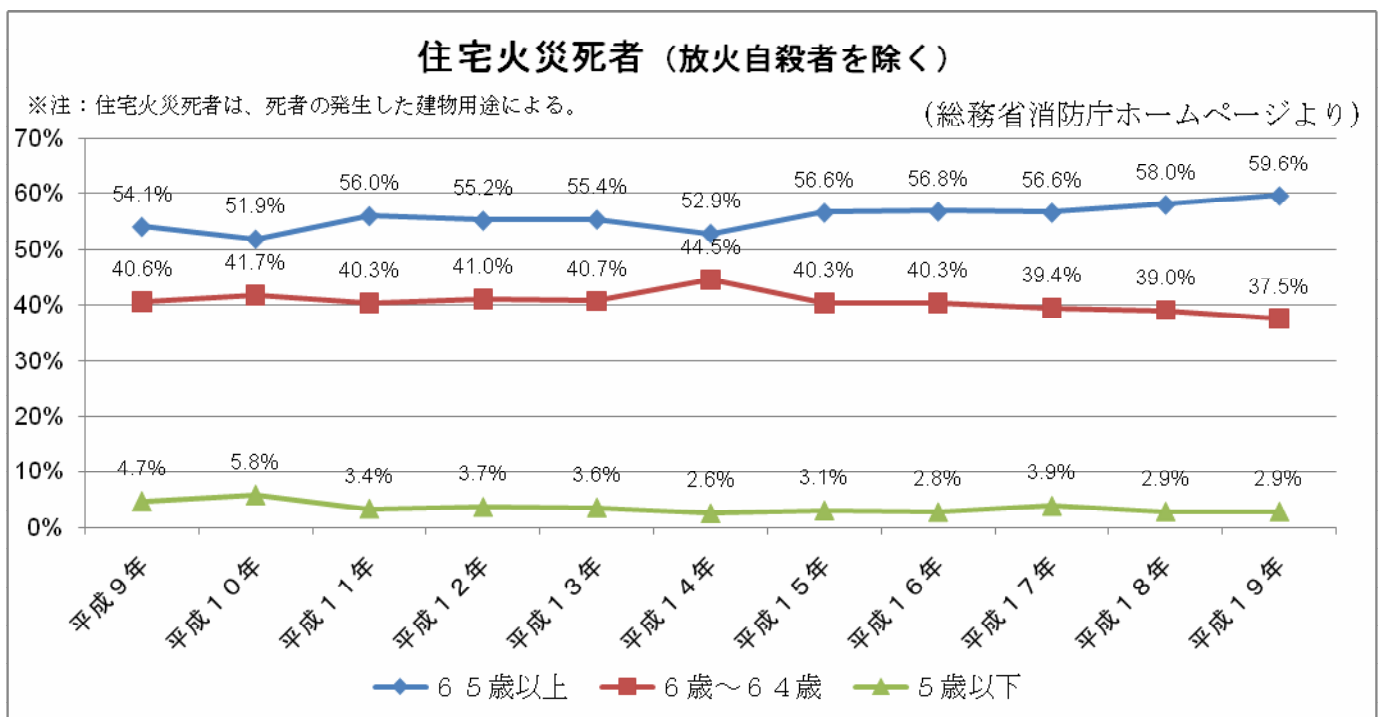
住宅火災による死者がとて多くなっています

全国の住宅火災による死者数は、平成15年以降6年連続で1,000人を超えており、統計データが存在する昭和54年以降では最悪の状況となっています。



1 年齢区分別割合の推移

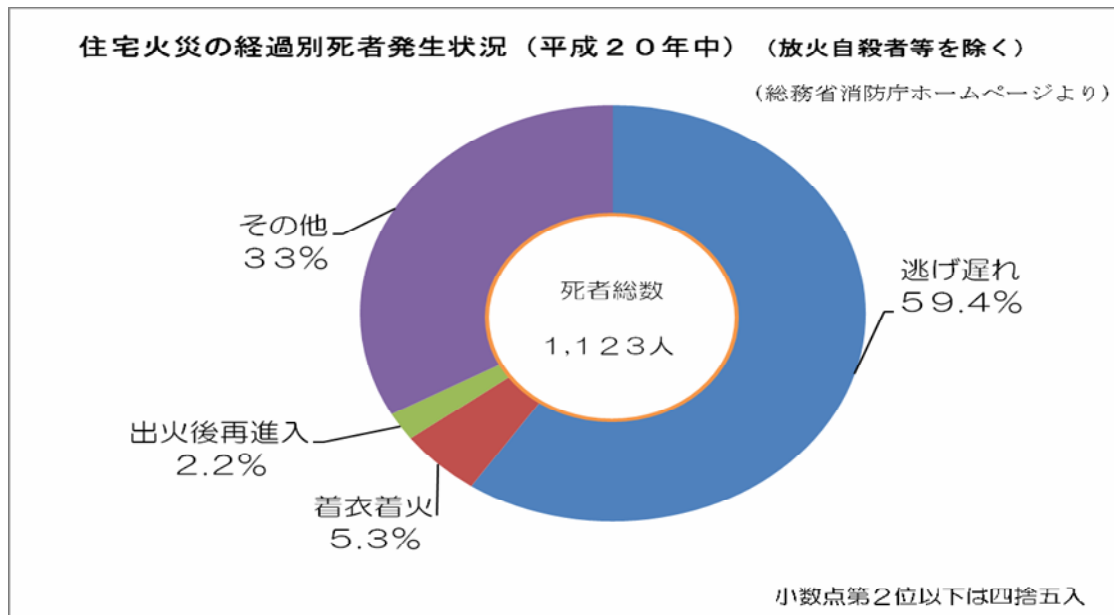
住宅火災による死者の半数以上は65歳以上の高齢者で増加傾向にあります。



2 経過別の状況

死者の約6割は逃げ遅れによるものとなっています。

その他（不明のもの）を除くと、実に約9割弱が逃げ遅れによるものとなります。



[目次に戻る!!](#)